



## 日本とブラジルで触れた日系社会の根深い内情 人を結ぶ心のふるさとのようになりたい

福田 熙子さん 株式会社フューチャーデザイン日本語学校 教員  
Hiroko Fukuda

ブラジルで感じたのは、日系社会独特の根深い問題。それは、大学生の頃に地元で出会った衝撃と通じるものだった。日系社会青年ボランティア(現・日系社会青年海外協力隊)を経て、故郷の日本語学校で今日も日本語を教える。外国ルーツの子どもたちを取り巻く現状を変えたい。その思いは、あの頃からずっと色褪せない。

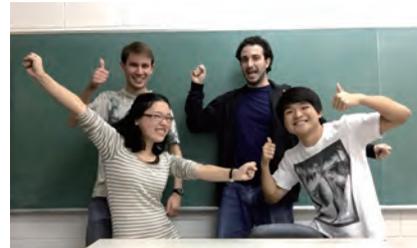
### 日本語学習者の現実に触れ 日系社会に貢献する道へ

高校生の時からずっと、日本語教師になりたい、と思っていた。「元々日本語に興味があったんです」と笑う福田熙子さんは、初志貫徹を体現しているような人物だ。大学では観光と日本語教育を学んだ。在学中、地元の小学校で、外国籍の親を持つ子どもが日本語を勉強している姿を見て、生活のために日本語を勉強せざるを得ない人たちがいることを初めて知った。日本語は、日本文化や日本を好きな人たちが進んで学ぶもの、と捉えていた彼女にとって、その衝撃が日系社会青年海外協力隊への扉を叩きかけとなった。

卒業後は、日本語教師として海外就職、あるいは大学院への進学を考えていたが、ボランティアをしていた日本語教室で出会った協力隊OBの存在に後押しされ、新卒で日系社会青年海外協力隊に応募。2014年、日本語教師として南米・ブラジルに派遣された。

### 手探りで必死だった2年間 求められる日本文化の継承

ブラジルのサンパウロ州にある日本語学校で、4歳からおじいちゃんおばあちゃんまで、実に幅広い世代を対象にクラスを担当した。何が生徒の心に響くかわからない中、授業で投げ続けたボールが返ってきた時は嬉しかった。



日本の音楽やブラジルの文化が、生徒たちとの絆を深めてくれた。海外経験も社会人経験もなかったため、経験による凝り固まった思考がなかったことが活動に対して有利だった反面、課題に対する解決策を見出すことが難しかった、と振り返る。「壁にぶち当たると、同期隊員や先輩隊員の活動を見学したり、経験談やアドバイスを聞いて改善につなげました」。



動画通信機材を用いてオンライン授業を行う。クラスの出席率が高いと、思わず顔がほころぶ。



授業に使う教材を入念に打ち合わせする。授業の事前準備にも余念がない。



職員室では、学生たちが回答したテストの採点も行う。

日系社会では、世代交代に伴う日系人意識の喪失を防ぐ目的で、日本語教育や日本文化の継承が重視されていた。生徒たちと共に参加した和太鼓のグループ活動では、先生と生徒の立場が逆転。日本で災害があった時も、いち早く気にかけてくれた。「日系の方々は、日本にいつも心を寄せてくれている。『ルーツがあるから』という理由だけでなく、もっと深いところで日系のコミュニティや日本文化の継承が必要とされている、と感じました」。

### 日系社会の見えない壁 ずっと胸にある少女の言葉

ブラジルの日系社会に身を置いて、初めて気付いた日系社会独特の内情があった。一番印象的だったのが、家族に連れられてブラジルに戻った日本生まれの少女が、日系社会に属さない人を指して放った一言だった。「あの人は外人だから」。家族の影響によって、知らず知らずのうちに「外国人」という線引きが子どもに植え付けられていることが、胸に引っ掛かった。

帰国後、日本語を話さない外国籍の

親のことを恥だと考え、距離を置く子どもにも出会った。言語やルーツ、アイデンティティによる「社会的孤立」。ブラジルの日系社会と、日本に住む外国人には、似通った問題が横たわっていると気付いた。

### 隔たりのない地域へ 彼らの心のふるさとを目指す

「外国にルーツを持つ子どもたちの状況を変えたい」。これが、大学時代から一貫する彼女の思いだ。言語の壁が立ち足ることで伸び悩む進学率と、アイデンティティに苦しむ子どもたち。10年前にそんな彼らの問題に立ち会って以来、実情何も進歩がないことが気になっている、と語る。「現場では、今でもその場しのぎの対応しかできていない。継続性のある日本語支援の体制を作り、彼らが自らの手で道をつかんでいけるように、日本語教育の在り方について働きかけたいんです」。

現在は、2021年10月に開校した株式会社フューチャーデザイン日本語学校の日本語教師として活躍している。新型コロナの影響で学生が来日でき

### 福田 熙子さん プロフィール

香川県出身。四国学院大学社会学部卒業後、日系社会青年海外協力隊としてブラジルへ赴任。帰国後、県内のホテルでの勤務を経て、現在株式会社フューチャーデザイン日本語学校の日本語教師。

ないため、開校当初から現在まで、ネパール・モンゴル両地とオンライン授業を毎日行っている。半年後には晴れて同校初の卒業生が誕生する見込みだ。日本語学校と並行して、外国人技能実習生、日系外国人や外国ルーツの子どもを対象に、地域の日本語教室や中学校でも日本語教育を意欲的に行っている。「私もブラジルで現地の方に何度も支えられました。在留外国人の方々に、「日本や香川に来てよかった」と思ってもらえるような隔たりのない地域を、今度は私が作っていききたい。私たちは彼らにとって外国人ではなく、同じ社会を作ると近所さん。この場所や私自身が、彼らにとって心のふるさとのような存在になれば」。日本語教育の裾野を広げ、これからの世代を担っていく彼女から目が離せない。

### 福田さんへの エール!

株式会社フューチャー  
デザイン日本語学校  
教務主任・日本語教師  
宇佐美 誠道 さん



### その視野の広さで、様々な主軸になってほしい

福田さんの素晴らしいところは、常に冷静で物事を客観的に捉えられている点に尽きます。現在行っているオンライン授業でも、過去の経験や知識をフルに活かしてしっかりと要点を押さえた授業をしてくれています。1日4～5時間の授業をこなす彼女は、体力的にも精神的にもタフ。いつもクラスの雰囲気がよく、まとまっている印象を受けるのも、きっと彼女の人の賜物でしょう。若い感性ならではの様々な工夫も行ってくれているので、これからも色々な場面で主軸になってほしいですね。